

## 【授業研究3】 高等学校第2学年世界史「西ヨーロッパの中世文化」

### (1) 学習指導案

#### 1 単元 西ヨーロッパの中世文化（ゴシック大聖堂の時代）

#### 2 目標

- 西ヨーロッパの中世文化は、キリスト教的要素を中心にゲルマン的要素・ローマ的要素が融合したものであることを理解できるようにする。
- 西ヨーロッパの中世文化の興隆は、ローマ＝カトリック教会の権威の増大と中世都市の発達を背景としていることを理解できるようにする。

#### 3 単元について

本単元の設定にあたっては、「児童生徒自らの生き方に迫る社会科指導の在り方」という社会科研究主題を、「社会生活の進展に尽くしてきた、あるいは社会を支えてきた人間の働き、社会の営みのもつ価値」への視座を獲得する、という観点からとらえ、事項の記憶による学習では見落とされがちな、歴史的事象における人間の活動に目を向けることを目標とした。

小単元である「ゴシック大聖堂」は、文化の根源を社会関係にもとめ、人間と人間の間を媒介とするモノを考察することによって文化の特徴をあきらかにする、という社会史的視点から歴史を学ぶ好素材であるだけでなく、既習の「教皇権の興隆」・「十字軍」・「中世都市の発達」などについての理解を総合的に深めうる教材である。なぜなら、都市の経済力と職人の技術力が幸福な結婚をとげ、キリスト教をめぐる主導権の奪い合いが、あらたな記念物の建設をうながし、「ゴシック大聖堂」の建立が可能となったからである。

さらに、本学習に関連する視聴覚教材（ペーパークラフトモデル・ビデオ・写真集・イラストなど）を用いたビジュアルな資料を中心としたプリントによる時代背景や建築構造の理解、自編集ビデオ（ゴシック大聖堂の外観・彫刻・聖堂内部・ステンドグラスなどの映像にゴシック期の教会音楽をBGMとして重ねたもの）によるまとめ、を3本の柱として構成した。

#### 4 学習計画（2時間）

- (1) 学問と大学・美術と文学 \_\_\_\_\_ 1時間
- (2) ゴシック大聖堂の時代 \_\_\_\_\_ 1時間（本時）

#### 5 本時の学習

##### (1) 目標

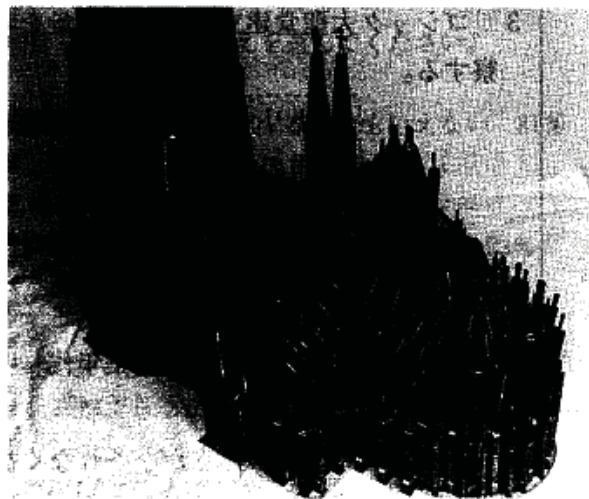
- 高さや光を追求したゴシック大聖堂の様式的特徴を理解する。
- ゴシック大聖堂は、カトリック的情熱の高まりを背景に、都市の経済力と職人の技術力の発達によって生み出されたことを理解する。

##### (2) 資料

ア 自作プリント（レジュメ）

イ 資料プリント（「ゴシック大聖堂の構造」・「聖遺物崇拜の高まり」・「ロマネスクとゴシック」・「ゴシックのステンドグラス」・「ノートルダム大聖堂の彫刻」・「アーチ・ヴォールト・ドーム」・「ゴシック大聖堂の断面図」・「交差リブ・ヴォールトの築造工程」・「大聖堂再建への情熱」・「ビデオ『ゴシック大聖堂とステンドグラス』のBGMの歌詞」）

- ウ ペーパークラフトモデル「ケルン大聖堂」  
(ドイツ：シュナイダー社製) < 右写真 >
- エ 自作簡易ペーパーモデル「日立の大煙突」  
「日立セメントのサスペンション・プレヒーター」
- オ 美術書 Alain Erlande-Brandenburg 『NOTRE・DAME DE PARIS』
- カ 自作掲示用年表「教皇権の興隆とゴシック大聖堂」
- キ 自編集ビデオ「ゴシック大聖堂とステンドグラス」



ペーパークラフトモデル「ケルン大聖堂」

(3) 展 開

学 習 活 動	資料	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 本時の学習内容を話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ゴシック大聖堂とは何か。 ゴシック大聖堂の建立を可能にしたものは何か。</p> </div> <p>2 大聖堂の性格・機能・様式的特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゴシック」と「大聖堂」の定義</li> <li>・性格と機能           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>司教区聖堂 修道院聖堂 巡礼聖堂</p> </div> </li> <li>・様式的特徴           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>垂直線の強調 ステンドグラス 柱・壁面の彫刻</p> </div> <p>◇ステンドグラスの美しさ ◇彫刻の題材・かたち等</p> </li> <li>・建築技術の三要素           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>尖頭アーチ 飛び梁 交差リブ・ボールド</p> </div> <p>◇これらの技術を用いて実際に建築にあたった職人像とその仕事</p> </li> </ul>	<p>ア</p> <p>イ</p> <p>ウ</p> <p>エ</p> <p>ア</p> <p>イ</p> <p>イ</p> <p>オ</p> <p>オ</p> <p>イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な建造物と比較してゴシック大聖堂の高さを感覚的につかませる。</li> <li>・大聖堂は中世都市民の生活・文化の中心となっていることに留意させる。</li> <li>・聖遺物崇拜の高まりについてふれる。</li> <li>・ロマネスクと比較して理解を深める。</li> <li>・「高さ」と「光」を追究したものであることに気付かせる。</li> <li>・「高さ」と「光」の象徴するものが何かについて簡単にふれる。</li> <li>・ゴシック大聖堂にケルト・ゲルマン的伝統としての森のイメージを見るところについて簡単に紹介する。</li> <li>・これらの技術の開発が「高さ」と「光」の追究を可能にしたことに気付かせる。</li> <li>・これらの技術が具体的にどのように現れているかペーパークラフトモデルとプリントで確認する。</li> <li>・交差リブ・ボールドについては、やや難解であるのでプリントを見て理解を助ける。</li> </ul>

3 ゴシック大聖堂建立の時代的背景を考察する。	ア	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> カトリック的情熱の高まり  都市の経済力の発達  職人の技術力の発達 </div>	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働に対する価値観の変化についてもふれる。</li> <li>・背景としての農業生産力の向上についておさえる。</li> <li>・既習の「教皇権の興隆」「十字軍」「都市の発達」との関連に注目させる。</li> </ul>
◇ゴシック大聖堂の建築年代		
4 ゴシック大聖堂の建立がなされなかった時代的背景について考察する。	カ ア	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 教会勢力の衰微  宗教改革  ルネサンス </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・象徴主義から写実主義への文化上の変化についてもふれる。</li> </ul>
5 ビデオ「ゴシック大聖堂とステンドグラス」を鑑賞して学習のまとめをする。	キ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BGMはゴシック期の教会音楽であることをあらかじめ伝える。</li> </ul>

(4) 評価

- ・ゴシック大聖堂の性格・機能・様式的特徴を理解できたか。
- ・ゴシック大聖堂建立の時代的背景について理解できたか。
- ・ビデオ鑑賞その他の学習活動に主体的に臨んだか。
- ・西ヨーロッパ中世文化に対する興味・関心が深まったか。

(2) 学習活動の展開

学習指導案に基づき、講義中心の一斉授業の形式で授業を行った。生徒の学習活動においては、特にペーパークラフトモデルを使用した場面や、まとめのビデオの鑑賞に積極性が認められた。授業全体を通して、平素に比してより積極的に学習に取り組む姿勢がみられた。一方、教師の進め方においては、時間に対して内容が多かったせいもあり、用意したプリント資料のうち十分活用できなかったものがあつたこと、後半の「ゴシック大聖堂建立の時代的背景」の説明が時間不足になったことなどが反省点としてあげられる。



ペーパークラフトモデルの説明風景

(3) 実践の考察

授業終了後、2クラスの生徒に、1. 理解度・興味関心の変容、2. 使用した資料への評価、3. 自由な感想、の3点について質問紙方で調査した(回答者数82人)。1・2については記号回答、3については自由な記述による回答とした。

そのうち、1の質問内容と回答結果については次のとおりである。

1. 授業に関する次の項目について、あなたの考え・気持ちに一番近い答えを選んでください。
- (1) 「ゴシック」や「大聖堂」の意味について  
 ア. よく理解できた 21% イ. どちらかといえば理解できた 51% ウ. なんともいえない 21%  
 エ. どちらかといえば理解できなかった 7% オ. 理解できなかった 0%
- (2) ゴシック大聖堂には3つの性格・機能があることについて  
 ア. よく理解できた 16% イ. どちらかといえば理解できた 54% ウ. なんともいえない 22%  
 エ. どちらかといえば理解できなかった 7% オ. 理解できなかった 1%
- (3) ゴシック大聖堂の3つの様式特徴について  
 ア. よく理解できた 23% イ. どちらかといえば理解できた 45% ウ. なんともいえない 27%  
 エ. どちらかといえば理解できなかった 5% オ. 理解できなかった 1%
- (4) ゴシック大聖堂の建築技術の3要素について  
 ア. よく理解できた 27% イ. どちらかといえば理解できた 45% ウ. なんともいえない 21%  
 エ. どちらかといえば理解できなかった 6% オ. 理解できなかった 1%
- (5) ゴシック大聖堂建立の時代的背景について既に学習した「教皇権の興隆」・「十字軍」・「都市の発達」の内容とも関連して総合的に  
 ア. よく理解できた 11% イ. どちらかといえば理解できた 37% ウ. なんともいえない 21%  
 エ. どちらかといえば理解できなかった 17% オ. 理解できなかった 2%
- (6) ビデオ『ゴシック大聖堂とステンドグラス』について  
 ア. 積極的に興味深く鑑賞した 53% イ. どちらかといえば興味深く鑑賞した 30%  
 ウ. なんともなく見た 13% エ. しかたなく見た 3% オ. 見なかった 3%
- (7) 授業全体を通じて  
 ア. 積極的に学習できた 10% イ. どちらかといえば積極的に学習できた 51%  
 ウ. なんともなく授業を受けた 35% エ. しかたなく授業を受けた 0%  
 オ. 授業をよく聞いていなかった 4%
- (8) 授業での学習の結果、ゴシック大聖堂の実物を  
 ア. ぜひ見たいと思う 82% イ. どちらかといえが見たいと思う 16%  
 ウ. とくに見たいとは思わない 2%
- (9) 授業での学習の結果、ゴシック大聖堂などヨーロッパの中世文化について  
 ア. 興味・関心を持つようになった、あるいは深まった 44%  
 イ. どちらかといえば興味・関心を持つようになった 38% ウ. あまり興味関心はない 17%  
 エ. 全く興味関心がない 3%
- (10) 全体としてこのような形式・内容の授業を  
 ア. 積極的に取り入れてほしい 45% イ. どちらかといえば取り入れたほうがよい 33%  
 ウ. なんともいえない 21% エ. どちらかといえば取り入れないほうがよい 0%  
 オ. 取り入れないほうがよい 3%

(1)～(5)では、学習内容の理解度について問うた。(1)用語の意味、(2)性格・機能(3)様式的特徴、(4)建築技術の3要素については、「理解できた。」とするア・イの回答がいずれも約7割、「理解できなかった。」とするエ・オの回答が1割未満となっており、生徒の理解度は概ね良好であるといえよう。しかし、(5)総合的理解では、ア・イが計48%、エ・オが計19%で(1)～(4)に比べて相対的に不十分な理解となっている。総合的理解は、元来難しいことであるが、時間不足で説明が不十分となったことが、生徒の理解度に端的にあらわれている。

(6)・(7)では、学習に臨む姿勢について問うた。(6)ビデオについては、83%(ア・イの合計)が「興味深く鑑賞した。」としている。一方、(7)授業全体を通しては、61%(ア・イの合計)が

積極的に学習できた。」としているが、ア「積極的に」が10%に、ウ「なんとなく」が35%あること、などは、講義中心の一斉授業の限界を示しているのかもしれない。

(8)・(9)では、興味・関心の変容について問うた。(8)では、ゴシック大聖堂の実物を見たいとする生徒が、98% (ア・イの合計) にのぼり、ペーパークラフトモデルやビデオなどの視聴覚教材を使用したこと、多面的に詳しく学んだこと、が興味・関心の深化に効果があったと推察できる。(9)では、ヨーロッパの中世文化について82% (ア・イの合計) が「興味・関心をもつようになった。」と答えており、「ゴシック大聖堂」というモノを通して中世文化全体への興味・関心がある程度深めることができたと考えられる。

(10)では、授業全体への評価を問うた。このような形式・内容の授業を「取り入れたほうがよい。」とした回答が78% (ア・イの合計) となっており、概ね良好な評価を得たが、ある意味で日頃の教科書中心の講義に対する不満の裏返しかもしれない。

次に2では授業で使用した資料について、それぞれ、ア「使用してとてもよかった。」、イ「どちらかといえば使用してよかった。」、ウ「どちらともいえない。」、エ「どちらかといえば使用しなかったほうがよかった。」、オ「使用しないほうがよかった。」の5つの中から回答させた。アの高い順に並べると次のとおりである。(かっこ内はア・イ合計の%) ペーパークラフトモデル86(96) %、簡易ペーパーモデル78(93) %、ビデオ58(83) %、写真集51(74) %、プリント(資料) 49(86) %、プリント(レジュメ) 36(76) %、掲示用年表は23(58) %である。

これを見ると、ペーパークラフトモデルは、生徒にかなり強いインパクトを与えたことが推察されるほか、視聴覚教材に対する評価は全般に高い。一方、年表に対する評価は相対的に低い。これは使用する時間が短かったこと、文字がやや小さく見にくかったことなどによるものと考えられる。3では自由な感想を書かせた。多くみられた感想は、「ペーパークラフトモデルの使用でゴシック大聖堂の具体的なイメージがつかめ、また身近な建造物との比較でそのスケールが実感できた。」「中世のヨーロッパの人々の信仰心の深さを感じるとともに、ヨーロッパのキリスト教文化に対する興味・関心をもつようになった。」「ビデオが興味深く、特にBGMのゴシック期の教会音楽が印象的だった。」「視聴覚教材を使用する授業を多く実施してほしい。」等である。これらのように、授業の目標をある程度達成したことをうかがわせる感想が多かった中で、内容に比して時間が不十分であったことを指摘したものも見られた。

#### (4) まとめ

文化史の学習においては、本来、暗記を離れて生徒の興味を喚起する教材が多く、多様な授業展開によって、生徒の「世界史は暗記科目」という認識を打破する可能性をもつと思われる。しかし、実際には、限られた時間と多量の学習内容の間で、政治史の学習よりもさらに個別的、羅列的な内容の授業になってしまうことが多い。本実践で展開した学習についても、限られた授業時間の中で詳細な学習の展開が現実として可能なのか、という感想をもたれたと思う。文化史をどう教えるかは多くの教師の課題であると考えられる。

文化史学習における時間と学習内容の問題を解決するために、次のことを提案してまとめたい。文化史の学習においては、1単元につき学習すべき文化の核となるようなモノや人物をテーマとし、視聴覚教材など多様な教材の活用によって生徒の興味・関心を喚起する。

このような手だては、文化史学習の充実を図る一方法となるのではないかと考える。